



大石仁美

病児保育奮闘記

私この度静養のため、しばらくお休みをいただくことになりました。70歳を過ぎたころから、急に体力、気力の衰えを感じ、「老化とはある日突然階段を一段二段降りたと感じるものだ」とある人から聞いていたので、ああ、こういうことなのかと、妙に納得しつつ、いやいや改善の余地はあるはずと、筋トレに通ったり、ご飯を減らしてその分タンパク質を増やしたり、朝のテレビ体操やワンの散歩もかかさず、努力と言えないまでもそれなりに生活しておりました。

御所で夕方に仲良しのワンちゃん同士集まって、キャッチボールあそびをしますが、ワンはもちろん飼い主の私もそれなりに楽しみで、時間に遅れないようにかけたものです。今思うと、昨年の夏過ぎごろから、ボールが投げられないとか、すぐ疲れて息切れがしていました。腹部に痛みを感じることもありましたが、そのうち忘れてしまう程度なので、そのまま放置していました。

不思議なことに、今年に入ってから、私亡き後の連れ合いの生活を気にしている自分がいて、今のうちに孫にも出来るだけのことをしてやりたいという気持ちが以前にも増して湧いてきて、ん～？やっぱり検査してみるかと十数年ぶりに検査を受けました。

結果は、想像していたよりも悪かったです。

2月に手術を受けますが、その後もしばらくはゆっくり、のんびり過ごさせてもらおうと思っています。のんびり出来るのは、70過ぎまで走り続けてきた私へのご褒美だと思って。

皆さまどうぞお体をお大切に！「車は車検、人は健診」公の場ではそう言っていたので、笑えます。



復活連載 脇野 千恵

また対人援助マガジンに再登場させていただきました。よろしくお願ひいたします。

昨年12月、私の住む市のまちづくり事業団の助成金が出る企画に応募してみたところ、見事採択されてしまいました。たいしたプレゼンではなかったのですが、驚きでした。地域の市民団体のグループとして活動もしているので、以前から何かやってみませんかと声を掛けてもらっていました。長年研究している性教育の実践と成果をアピールしたのが良かったようです。今まであまり光があたりなかった性に関する問題について、審査員に関心をもってもらえたことが何よりだと思っています。4月から、2年間の具体的な活動を始めなくてはなりません。思春期にある子どもたちに絞ってのサポートと、居場所作りをと考えていますが、うまくいかいかないかより、何かを始める時のドキドキ感を楽しんでいきたいと思っています。

こころ日記「ぼちぼち」part II
p311～

岡田隆介

1月の三連休の初日、なんとなく腰が重い。二日目、腰から大腿部にかけての痛みで歩行が辛くなる。三日目、我慢できず整形外科の当番医にかけこむと、駐車場も待合室もいっぱい。患者はみな後期高

齢者だ。

長く待って、検査して坐骨神経痛と言われ、鎮痛剤の内服薬とある程度の諦めを処方される。その後も痛くて歩きづらいため、医者をやめて人生初の整体に(精神科から民間療法へ変わる感じ、違うか?)。劇的な効果はないが、丁寧さ・一生懸命さ(文字通り汗を流してくれる)が心地よくしばらく通う気になった。

痛みと付き合いは年齢との折り合いだ。(文字通り)ゆっくり歩くことにする。

エア絵本 -ビジュアル系子ども・
家族の理解と支援(3)-
p43～

一宮 茂子

映画「ボヘミアン・ラブソディ」。この冬、映画館へ何度も観に行った。英国の「クイーン」という伝説的ロックバンド。主人公はヴォーカル&ピアニスト&ソングライターであるフレディ・マーキュリー。バンド結成から1985年に行われた「ライヴアイド」でのパフォーマンスまでを描いた伝記映画。ライブでは8万人～10万人のオーディエンスの心を一つにするフレディの圧倒的な歌唱力とパフォーマンスは圧巻。それらは人々を団結させる力となり、自分らしく生きる人生の応援歌となっている。ゲイであるフレディは1991年エイズによる肺炎で永眠。45歳。

ストーリーテリングは彼の実像とパフォーマンスを重ねて、生き急いでいるように見える有り様を、観る人にたたみ込むように語りかけてくる。観るたびに感涙した私は結局7回観に行った。こんな経験は初めて。この爆音映画、上映が終わるまでにもう一度観て強く記憶に留めたい。

生体肝移植ドナーをめぐる物語(4)
P292～

松岡 園子

今、しているお仕事の一つに、訪問介護のお仕事があります。訪問介護は、利用者さんのお宅に伺って必要な援助をすることから、自分がその方の生活の中に「なじむ」ということを意識させられます。うまくなじむことができると、私たちは利用者さんの生活の一部になることができます。それが一番自然で心地よいことなのではないでしょうか。ですから、日々の援

助を通してその利用者さんを知ることから始めようと思い、1人ひとりの方とよくお話しすることを心がけています。

**統合失調症を患う母とともに
生きる子ども(4)**
P282~

中條 興子

前回35号はお休みしましたが、今回『盲ろう者』として自分らしく生きる』の3回目を執筆させていただきました。

連載を始めたものの、これから書いていけるのだろうかと不安でしたが、この冬、初心に戻ることができ、3回目を完成させることができました。自分が自分の障害とどのように生きてきたのかということに真剣に向き合い、今回、ずっと言語化できなかった事が言葉にできたり、忘れかけていたことも思い出せました。過去の時間は戻りませんが、その時々起こった出来事を、思い出して考えることで、もう一度、生きなおしているような気持ちになりました。これからもよろしく願いいたします。
「盲ろう者」として自分らしく生きる(3)
P302~

杉江 太朗

児童相談所で働いています。メディアでは、大注目を浴び、国家資格化なんてことも騒がれています。

児童相談所は、戦争孤児の対策に始まり、不登校や非行の子の対応を経て…。今や虐待に関する専門機関としての役割を求められるようになりました。

今も昔も変わらないことは何でしょうか。それは、子どもを通して社会に働きかけることではないでしょうか。社会とはその子どもの家族であり、その子どもの所属です。目の前の虐待というエピソードに振り回されずに、少しでも社会がマシになるように働きかけ、少しでも子どもの生活の質が高まることを目指して奮闘しています。

「余地」-相談業務を楽しむ方法-(5)
P276~

迫 共

保育や社会福祉について考えられる漫画を紹介する企画を考えたのが2年前。すぐにネタが尽きてしまうのではと心配していましたが、そんなこともなく、むしろ一

見するとまったく保育や社会福祉に関係なさそうな作品からも考えていくことができるものだと気づかされています。

同僚に紹介されたのが、今回とりあげた『花もて語れ』でした。こんな作品があるよと教えてもらえるのも嬉しいものですね。専門書を読む時間もないなか「まんだらけ」に足しげく通い、コスプレの店員さんに「この漫画ありますか？」と聞きまくる、ダメ人間化を進めています。



保育と社会福祉を漫画で学ぶ(5)
P273~

朴 希沙(Kisa Paku)

早いもので年も明け、もう2ヶ月が経とうとしている。私はここ数年、大晦日には1年を振り返り、今年目標を考える。実はここ10年近く、1年を振り返っては、毎年がよりよいものになっていると感じる。よく、昔はよかった、若い頃はよかった、あの時代に戻ればという人がいる。私は、全然そう思わない。高校生の頃実家を出て、新しい出会いの中に飛び込み、一人で韓国に渡り、自分にとって本当に必要だった学びや本に出会い、日々変化していく中で自分がより幸福になっていると感じる。新しいことを知れば知るほど、長い付き合いの友人たちとの関係が毎年深まれば深まるほど、自分の人生がよりよいものになっていると感じる。そしてそれを一番感じるのは、朝起きた瞬間だ。

子どもだったころ、私は学校も家も嫌いだった。朝起きてもちっとも面白くなく、なんとなく毎日憂鬱でどこか満たされない思いがあった。しかしここ5年ほどは、毎朝起きるたびに自分の中に力が湧いてくるのを感じる。目が覚めたときに、身体の中から幸せな気持ちが溢れ出てきて、爽や

かな風が吹き抜けるような感覚がある。「いつ自分はこのように変わったんだろう？」と時々不思議に思う。多くの出会いが、私を変えていった。人からどう評価されるのではなく、私自身にとって必要なこと、大切なことを何よりも尊重してくれる人との出会い、在日という属性についても気にせず思いっきり勉強し友情というものについても知った韓国での環境、学ぶということは社会的地位を得るためではなく、自らの視点を広げ自由に考えられるようになることだと古典や哲学を教えてくれた韓国の先生たち。私自身の視点を理解し、いつも支えてくれる人々との出会いが、私を変えていった。だから私は、自分の人生に、実際とても満足している。

しかし最近、日本社会では嫌なことばかりが起こっている。沖縄では無理やり基地が作られようとし、政府の汚職や性暴力も十分に追求されるどころか野放しに近い状況になっている。だから私も、こんな社会の中で自分が満ち足りていることに少々驚かされるのだが、それだけではやっぱりよくないので自分に出来ることを少しずつ重ねていこうと思う。ほんの少しの影響を、誰かに届けられることを願って。

マイクロアグレッションと私たち(6)
P269~

浅田 英輔

実は今年、臨床心理士の更新でした。更新書類の提出締め切りが1月31日。同じ時期に更新した同業者と話していて、「臨床心理士の更新は済んだしね」と言われて、「え???」となったのが1月30日。焦りましたが、資格認定協会の方は優しく「だいじょうぶですよ」と。ああよかった。公認心理師の登録証の色は気になります。見分けやすい色だからいいか、とします。

臨床のきれはし(4)
P152~

三浦 恵子

昨年暮れに配偶者の父を見送った。

私自身の実母についても長い在宅介護や施設入所、長期入院を経て平成26年春に見送りを行ったが、またその時とは違う様々な思いや体験を重ねつつ今日に至っている。

今回の執筆テーマは以前から暖めていたものではあったが、義父の看取り・見送りで感じたことを、当事者の視点から書かせていただいた。粗削りの部分はどうかご寛恕いただきたい。

介護や看取り、見送りの形は、ある意味家族の在り様を示すものだと実感している。

周囲の方々にも本当に多くの支えをいただいたが、とりわけ同じ家族介護者としての立場から支え合ってきたグループの方々への感謝の気持ちは大きい。当事者相互の支え合いの大きさを改めて思い起している今日この頃である。

現代社会を『関係性』という 観点から考える(7)

P252～

寺田 弘志

このマガジンの執筆者の中島弘美さんと。最近かわした会話です(多少、編集しています)。

寺田(以下 T)「もう次の原稿は書けましたか？」

中島(以下 N)「いいえ、まだです。2月は短いから締め切りが早く来ますね」

T「次は、偽解決を書こうと思うんですけど」

N「おもしろそうですね」

T「偽解決の話をはじめて聞いたのは中島さんからですよ」

N「そうなんですか」

T「暑いときに「暑い、暑い」って言って「あっ、偽解決」って付け加えてはったの、覚えてます？」

N「そんなこと言いましたっけ」

T「私の記憶違いかもしれないです。ただ、偽解決って言葉、妙に印象に残ってるんですよえ」

ずいぶんと昔の話ですが、会社勤めをやめて、心理療法の仕事に転職しました。その職場の先輩が中島さんでした。私より年下ですが、よく勉強されていて、いろいろ教えてもらった覚えがあります。

難しいことでも、たとえ話を入れ、噛み砕いて話されるので、「じょうずにしゃべらるなあ」としばしば感心したものです。

ただ、教えてもらった内容のほうは、記憶が苦手な上に、柔道整復の方に再転職したため、ほとんど忘れてしまいました。

(中島さん、ごめんなさい)

たぶん、勉強会か何かで、中島さんが偽解決の説明をされたと思います。

「暑いときに、解決にはならないけれど「暑い、暑い」って言うのも、偽解決のひとつです」などなど。

その後、普段の何気ないときに「暑い、暑い……あっ、偽解決」、忙しいときに「忙しい、忙しい……あっ、偽解決」とつぶやかれるのです。

こんなご指導のお陰で、偽解決という言葉は私の記憶に残り、接骨院で施術をするときに役立っています。

そして、中島さんにお声かけしてもらったお陰で、このマガジンに原稿を書いています。

接骨院に心理学を入れてみた(7)

P246～

飯田奈美子

今年のバレンタインは、娘(4歳)の「友チョコ」デビューになりました。テレビで、最近のバレンタインは手作りのチョコレートを友達にあげるのが流行っているというのを見て「作りたい！」と大張り切りで前日からチョコ造りを行いました。型に入れたチョコレート(これは母担当)にトッピングを載せる作業をしました。40個全部のトッピングを娘が1人でやり、ラッピングもして、当日、保育園の先生、いつも遊んでくれている小学生のお姉ちゃんたち、マンシヨンのコンシェルジュのお姉さんに渡すことができました。みんな喜んでくれて、保育園の先生からは「女子力高い！」と言われていました。母は準備が大変でしたが、途中で投げ出すことなく最後までチョコづくりを行った娘に感動して、少し誇らしい気持ちになりました。

対人援助通訳の実践から(7)

P256～

山口洋典

去年の今頃は日本への帰国を前に、デンマークにも春の訪れを感じていたと思いついて、現地から「緊急事態」というタイトルの電子メールが届きました。

2月2日に届いたそのメールでは、私もお世話になった文化心理学研究センターの2名の教員が「今後の大学ビジョンに合

わない」「学部の将来構想に合う職能ではない」「その他の業務に関わる個人的資質」という標準的な理由で解雇し、センターを閉鎖する計画があると伝えられました。この呼びかけがメーリングリスト宛になされたことで、多くの人々から追加の情報が寄せられ、過去4年間でデンマークの教育関連予算は2,000万DKK(約338億円)削減されていること、大学は年間2%削減が強いられていること、人件費を抑えるために准教授クラスが解雇の対象となっていること、研究よりも教育に集中することが余儀なくされていること、そうした状況が共有され、世界の各地からも意見が寄せられました。



早速、執行部宛のメッセージが募られることになって私も賛同しましたが、特に人文社会系が軽視されている(STEMや医療系が上位に位置づけられている)ことや、将来的なことを考えてなのか若手の芽が摘まれていることは、日本にも通じる点であり、陳腐な有用性で未来の可能性を手放していないかと案じてしまう今日この頃です。

PBLの風と土(8)

P240～

関谷 啓子

昨日、久しぶりに映画を見た。

「空と風と星の詩人」 戦時下の日本、同志社に留学中「治安維持法違反」で警察に捕らえられ獄中死した韓国の詩人尹東柱の生涯を描いた作品。

週一回、自転車で過ぎる通りに小さな碑が立っていて花が途切れる事がない。

もう何年も通り過ぎていたが、ある日止まってじっくりとその碑を読んだ。

「尹東柱」という若い詩人が昔住んでいたアパートの跡地で、同志社の学友たちが彼を偲んでこの地に建てた・・・と彼の短かった生涯とその建立の意味が刻んであった。初めて尹東柱という名前を知り、彼について少し読んだ。



知り合いの韓国人に彼のことを尋ねると、みんな知ってるよ・・・と知らない私を不思議そうに見た。

ネットで、詩集で少しずつ身近に感じるようになった。

つい最近、TVでも取り上げられ、彼の亡くなった福岡と最初に入学した立教大学で彼の詩を読み継いでいるグループのあることを知った。2月16日は彼の命日で同志社では彼を偲ぶ会が行われ、参加者に一輪の花を持参して欲しい・・・との新聞記事も見つけた。

映画は、激しい拷問のシーンなどを覚悟して行ったのだが、結果的には彼の詩のような柔らかなしかし強靱な思いが残った。素晴らしい映画だった。彼の詩の中で「生きる事は難しいのに詩を書く事が容易い、それが恥ずかしい」という一行がありよく理解できなかったのだが、映画を見てその背景がわかると深く心に沁みた。

京都シネマという小さな映画館が満席だったのは嬉しかったが、観客のほとんどが高齢の人で、私の見た回では若い人は皆無だったのが残念だった。

今の時代、若い人にこそ見て欲しい映画だったのに。

生きがたきにたは易く詩の書けること
恥づかしといひし尹東柱忘れず

「田中」にあらず「金玉齡」と立ちて名乗りし友敗戦の日に

神谷佳子

歌集「窓」より2首

私の出会った人々

P231～

黒田 長宏

経緯の詳細は本文に展開されておりますが、1月23日に、『婚難救助隊』というサイトを個人事業で開始しました。マガジン連載開始の頃はこの開設をまったく予期していませんでしたが、これをライフワークとして、私は、特定の男女が結婚して子供を育てる繰り返しというシンプルな昔から多く続いた方法論のほうを支持し、発言して行きたいです。

<https://konnankyuujotai.jimdofree.com/>

ああ結婚 (9)

P237～

鶴野祐介

「今年も3・11が近づいてきました。明日(3月1日)から3日間、仙台を拠点に、昼間は宮城県内各地をレンタカーで廻って民話の語り部さんにお話を伺い、夜は友人と地酒や海の幸・山の幸を堪能する予定です。

うたとかたりの対人援助学 (10)

P233～

臼井 正樹

延べ10回、2年半に渡る「介護福祉を巡る断章」と題した連載にお付き合いいただきありがとうございます。

介護福祉の社会的価値向上のために、もうしばらくの間、出来ることを出来る範囲で取り組んでいきたいと思っております。皆さまのお力添えをいただければ幸いです。

介護福祉を巡る断章

P213～

山下桂永子

昨年末にスリランカに行きまして、そして2月の連休には北海道に流水を見に行きました。気温差は50度近い。我ながら振り幅がすごいなと思います。

その合間にもちょこちょこ関東一人旅やら友人と牡蠣の食い倒れ旅行やら、家族と日本海温泉旅行やらも行っておりまして、旅が多い今日この頃です。よく考えたらこの10年ほどは、毎週1回は特急に乗って仕事に行ったりするし、ほぼ毎日通う

職場も通勤時間片道1時間半はかかるので常に旅をしているのかもしれない。

どんな旅でも楽しいのですが、昔から何事も準備や片付けがぐずぐずして、整理整頓の苦手な私は、行く前の荷物のパッキングや、帰ってからの荷物の整理は少し憂鬱になってしまいます。結果、旅に行く前も行った後も部屋が荒れ放題です。

というわけで、今回はそんな旅に臨む不安について書いてみたくなりました。読んでいただければ幸いです。

町家合宿 in 京都 (9)

P196～

尾上明代

春休み中は、普段なかなか引き受けられない講座やセッションを国内のあちこちで実施していますが、来週は札幌にある大学に行きます。

いただいた依頼内容は、学生ピアサポーターを養成するにあたり、「相手とのコミュニケーションを図りながら、自己洞察へと向かうような演習」を、ということでした。そしてメンバー同士がお互いを知って距離が縮まるように、でも相手と距離が近づきすぎないようにバウンダリーを保つことを体験できるワークも、とリクエストされました。

今の若い世代は、友人たちの空気を懸命に読み、SNSでも常に繋がり、過度に共感合っているような状況なので、ピアサポートの場で適切な境界線を保ち、より良い関係を創れるようになることは、いうまでもなく最重要ポイントの一つです。

お互いの距離を縮めるセッションは簡単にできますが、その逆はちょっと工夫がいります。バウンダリーの重要性は、口頭で講義すれば、すぐに頭では理解してもらえるでしょう。でも身体的、感情的にも、ホリスティックに体感してもらいたいのので、そのワークを考案しているところです。

アイデアを出して新しいゲームやワークを創るのは、本当に楽しい！ それにいろんな場所でたくさんの人と新しい出会いができるのも嬉しい！ そのような仕事ができること、出会いを創って下さる方々に、改めて感謝している毎日です。

高齢者とのドラマセラピー

P119～

小池英梨子

猫との知恵比べの毎日です。息をこらして車に潜んで、仕掛けたトラップに保護したい猫さんが入ってくれるのを待っていると…



「何してんの？」とボンネットに…。

はあ…。

あの手この手と作戦を変えて、この子は3回目のチャレンジで無事保護することができました。

そうだ、猫に聞いてみよう(13)

P221～

松村奈奈子

私、夜景が大好き。

冬は空気が澄んでいて夜景がキレイな季節。そんなもんで、以前から気になっていた新幹線徳山駅から見える工場夜景、仲間3人と見に行っちゃいました！



周南市の観光協会が主催する工場夜景ツアー。小さな漁船に3人で乗り込み、海から工場群のすぐそばまで行きます。24時間稼働する工場の音と神々しい光。圧巻です。観光協会のお兄さんの説明を聞きながら1時間はあっという間に過ぎました。その後は、工場夜景認定ドライバーのタクシーに乗って、地上からの写真ばっちりスポット巡りの1時間。これまた違った目線で、解説を聞きながら工場の周りをドライブ。いやー、堪能しました。最後に、手書きの説明メモと地元の観光パンフレットがいっぱい詰まった袋を手渡してくれました。

屋間、新幹線徳山駅前の商店街を散歩すると、そこには閉店したデパートとたくさんの野良猫たち。なんだか複雑な気持ちになりましたが、バリバリの山口弁で熱く我が街自慢を語る観光協会のお兄さんとタクシーの運転手さん。地方都市で「じーん」とくるいい時間でした。

精神科医の思うこと(12)

P199～

奥野景子

専門学校に入学して約一年が経った。最近「自分が今やるべきことは何なのか？これからやりたいことは何なのか？」をより具体的に考え始めているように思う。その中の一つに「書く」ということに思いを巡らせている部分がある。‘どこで、なにを、どんな風に、何のために書くのか？’自分のこれからに向けて思考を巡らせると同時に、動かなきゃいけない時期がもう目の前に迫っているような気もしている。

今回のマガジンは、今までのように‘流れの中の一つ’として書いてはいけないと思った。だから、今回は短信のみ書かせてもらった。次回のマガジンまでに自分なりにどこかに辿り着いていたいと思う。

柳 たかを

奈良の家の敷地内に植えてある木々や垣根の剪定をサボると葉が生い茂り、ランダムに伸びた枝葉でとても見苦しいことになる。暖かくなると新旧の枝と葉が密集した風通しの悪い木には病気が虫が発生しやすく、サザンカなどにはチャドクガが大量発生したりする。

実際にチャドクガの棘が肌につきかぶれて激しい痒みに襲われたことがある。最初は家ダニを疑ってダニ用殺虫剤など買ってきて右往左往したが、病院皮膚科でチャドクガの体毛(毒針)の疑いを言われ、そもその原因が庭木の剪定をずうっと放置していたことにあると気がついた。

剪定には大きく二種類「刈り込み」「切り戻し」の方法があり、前者は植木の外側を剪定バサミなどで刈り込む方法だが、内側の枝は放置されるので、刈り込んだ直後は綺麗だが、すぐ切り口から新しい枝葉が伸びて輪郭が崩れる。なので密集した枝や葉を透きとってやる「切り戻し」剪定がどうしても必要になる。

遅まきながら、ようやくその事に気づき「切り戻し」剪定を勉強中、庭に毎年明るいムラサキ色の花を咲かせてくれるオオムラサキツツジのドーム型の樹木があり、この木の切り戻し剪定をした。

木の輪郭表面まで伸びて先端に葉をつけている枝を手でかき分け、木の中心部をのぞくと葉のついてない無数の枯れ枝がびっしりと密生している。内側から日光を求めて木の表面へ伸びて来て、今は役目を終えて茂みの中で朽ちている感じだ。日が当たる表面に届き緑葉をつけている枝は細くても簡単に折れないムチのような強さがある。隣の同じぐらいの太さの葉がない枝をギュッと掴んだら「ポキッ」と乾いた音を立てて崩壊してしまった。日を浴びることが出来ないと光合成ができず、木全体の成長に貢献出来なければ枯れていく運命だ。枝をかき分け枯れ枝を切り落としながら、人間の世界でもスクスク健康に「育つ時期」と何故かうまく「育たない時期」との区別があると思った。

というのは、かつて兄の息子(甥)の1人が中学生の頃に引きこもり状態になり、心の塾などを紹介され兄夫婦は藁にすがる気持ちで甥に参加させたりしたがほとんど効果はなかったようだ。

やがて無理して進学や就職を目指さなくても「生きてさえいればいい」という思いに変わっていったと思う。私が甥と最後に言葉を交わしたのは彼が20代の中頃、もう20数年昔のことだ。性格は素朴で恥ずかしがり屋、話しかけると照れ笑いをしながらボソボソと一言二言返事をしてくれる少年だった。

昨年、近い身内の仏事の会場で久しぶりで甥と会った。20数年ぶりの時間を感じさせる風貌に変わっていたが、引きこもり中は、運動不足のせいかでつぶりしたお相撲さん体型だったのが、別人のようにスラリとした体型に変身していて驚いた。私はいろいろ話してみたい誘惑をおさえ「元気そうやね」と努めて明るく簡単な挨拶をした。するとニコッと笑い「うん」と少年のような返事を返してくれた。照れたような笑顔は少年時代と全く変わらないなと思うと、それ以上次の言葉が出てこなかった。

人も植物も外側だけみて安心していると内部で知らないうちに荒廃が進んでいるかも知れない、やがて異常が発生して

ようやく気づくことになる。とはいえ、生きていさえすれば、必ず次の道は見つかる、そこから無理せず再度スタートし直せばいいのだと、そんなことを考えた。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ P205~

齋藤 清二

早いもので、今年度も終わりに近づき、暖かくなってきたと思ったら、あっという間に花粉に悩まされる季節となりました。「花粉を飛ばしている杉の木にしか使わないと約束するから、巨神兵を貸してくれ、頼む！」と叫びたくなるような季節です(笑)。

ところで、ようやく登録が終わり、晴れて公認心理師を名乗ることができるようになりました。これが最後の国家資格取得となると思いますが、少しでも後進の教育の役にたてればと思っています。

「あ！萌え」の構造 番外編5 P190~

小林茂

年が明けてから、ひと月かふた月に一度の休みが取れるようなそれまでの生活から変化があった。休みがひと月に二度くらいとれる生活になり、近年になく時間にゆとりがあるようになった。

だが、結局は休みの日の使い方がよろしくない。普段の疲れのためか、午後3時ごろまでゴロゴロと過ごし、あとは掃除など家事をこなし、という生活になる。休みの前の日には、「明日は、あれして、これして」と希望を膨らませるのだが、当日になるとそうならない。毎日、生産性のある生活を送らなければならないという信念は持っていないのだが、まだアンバランスな生活なのだろうと思わされる。

もう少し暖かくなれば、外での活動も増えていくことを期待したい。

<温泉紹介>

☆鶴の湯温泉

由来：明治の初め頃、フモンケの原野(現在の安平町)に放牧馬を監視にきた牧夫が、しばしば病んだ鶴が沢地に舞い降りていき、冷泉に浴(湯浴み)して病気を治し飛び去って行くのを見ました。この話を聞いた井上利三郎氏がケガをした人と家

畜をこの泉に浴させてみると、疾病は忽ち治り、神のごとき効能があったので、これが霊泉であることがわかりました。

鶴に教えられたことから“ツルの温泉”と名付けられ、この事が広く道内に知れわたり、ツルの温泉が“鶴の湯温泉”と呼ばれるようになったのです。



温泉質：冷泉含硫黄ナトリウム炭酸水素塩泉

泉温 14.5℃(冷泉) 湧出量：130L/分

浴用適応症：神経痛・創傷・皮膚病・きりきり・やけど・筋肉痛・疲労回復・冷え性・慢性婦人病・うちみ・関節痛・糖尿病・慢性皮膚病・五十肩・運動麻痺・関節のこわばり・痔疾・病後回復期・水虫

〒059-1506 北海道勇払郡安平町早来北町5番地

TEL 0145-26-2211 FAX 0145-22-3338

対人支援 点描(17)

P188~

中島弘美

「就職が決まりました。〇〇で働きます！」「留学で〇〇に行きます。卒業後は、現地で就職する予定です！」「もうすぐママになります！」

この季節の報告はうれしい話題が多いです。

そうか、そんなふうに関心したんだと、それぞれが選んだ道と思うと、応援したい気持ちでいっぱいになります。私に手伝えることはないけれど、きっとなんとかやっていくに違いない、それだけの力を持っているし、きっとたくましくなっていくだろうと思っている。

新しい場所で新しい役割でみんなが動き出そうとしている、新しい年号を迎える春です。

カウンセリングのお作法(18)

P34~

藤信子

応用人間科学研究科の最後の院生を送り出すので、この3月には衣笠の研究室のものを茨木キャンパスに移動することになった。講義等で使用する書籍は夏休みに移していたので、残りのものを片付けなければならない。

あと1年で定年なので、あまり持って行っても面倒だけれど、今すぐ自宅に移すとするとこれはまた入れる場所がない。衣笠で捨てる物は捨てて、1年かけて自宅の要らない本を捨てようと思う。一時は本など捨てるとは思わなかったが、この頃はこれから先繰り返し読むかどうか、考えながら整理しようと思う。これからも継続すること、時間ができるからこそしたいこと、もう関係ないと思える事などを、ぼんやり考えているところだけれど、年度が新しくなり、連休や夏休みになると、ぼんやりはしてられないなと思っている。

千葉晃央

ミスをしたときこそ、チームメイトがその当事者にタッチをする。そんなスキンシップは次のプレーへの力水だ。落ち込むよりも、次うまくやればいい。これができるチームとそうでないチームは雰囲気はまるで違う。

怒鳴りまくる、正しい指示を出しまくるタイプの指揮官もいる。プレイヤーは指示通りに自分が動くことができているのかが気になり、目の前の局面に自分自身が100%で向き合えていない。これらはバスケットボールの試合を見て感じたことだけれども、仕事でも同じだと思う。

ミス後のタッチ。クライアントを保障するという対人援助の原則は、チームスポーツでも当然生かされている。それは、次の局面が続くからであり、そこによいことが起こる可能性が十分に残されているから。

観ていたのは、21年ぶり自力でのワールドカップ出場を決めた男子バスケットボール日本チームの試合！ドーハの歓喜！アカツキファイブおめでとう！8月の中国大会も応援しよう！

知的障害者の労働現場

P16~

中村正

昨年の秋から情状鑑定をしていた裁判

が結審した。検察は殺人罪で懲役15年を求刑した。裁判員裁判では嘱託殺人罪が適用され、5年6月となった。

治療的司法・修復的司法の観点から力をいれてきたので少し安堵している。もちろん社会問題としては複雑なものを背景にしているので心身共にクリアではない。

こうした事案は親密な関係性における暴力の事例に多いから、その錯綜具合は半端ではない。介護殺人も同じような構造となる。事例毎にみると本当は難しいものばかりである。そして何よりも家族関係を鑑定するのも難しい。あとは検察が控訴するかどうかだ。社会も、そして私も、家族臨床の糧にしていくなかと思うと、いつこの近況を書いている。

臨床社会学の方法(23) P20~

団遊

大学でキャリアの授業をはじめて10年近くが経ちました。月に1回程度、大分にある立命館アジア太平洋大学という学校に行き、大学生と対話しています。

授業の一環で「仕事を探す上で何を重視するか」を考えるワークがあります。「収入」「福利厚生」「仕事内容」「会社の業態」など並んだ項目から選び、順番をつけていきます。誰一人として同じ順番になることはなく、そこにはその人の価値観が反映されます。その価値観をお互いに話し合うことで、自身の価値観に改めて気付いてもらうのが目的です。

このワークで毎回興味深いのは「人間関係」の項目をどこに置くかです。上位と下位が、如実に分かれるからです。上位に置く人の言い分は「仕事は人とするものだから、人が一番大切だ」というもの。下位に置く人の言い分は「仕事と友達関係は違うから、もちろん大切ではあるけれど、それより大切なものがたくさんある」というものです。人間関係重視派と非重視派に分かれてもらうと、どことなく人としての雰囲気似ています。

ほか的な解釈では、これはつまり「コントロールできるものを重視するか、コントロールできないものだからこそ重視するか」の差だと思います。「人間関係」はどれだけ重視しても、収入や仕事内容ほどコントロールできません。だから「気にしても仕方

ない」と考えるか「だからこそ気にするのだから」。皆さんはどちら派ですか？

人を育てる会社の社長が、 今考えていること P30~

村本邦子

前々から心惹かれていたが、今年は、天草、島原、長崎と回り、「隠れキリシタン」について学んでいる。ちなみに、これまで「隠れキリシタン」と呼ばれてきたものは、現在、「潜伏キリシタン」と「カクレキリシタン」とに区別されるらしい。

禁教が解かれた後、公式にキリスト教登録したのが「潜伏」、登録を拒否して独自の宗教を維持しているのが「カクレ」なのだそう。なお、キリスト教の弾圧に対して、①殉教 ②抵抗 ③潜伏 ④転びの4つの選択肢があった。私はキリスト教ではないが、姿勢として、ずっと抵抗を好んできたと思うが、年を取った今では、潜伏がいいかもと思いつけている。



また、長崎のキリスト教は、原爆を「五番崩れ」「崩れ」とはキリスト教集落の大量検挙事件のことで、信仰心への試練と捉えられていることを知り、感銘を受けた。これまで苦難を生きのびてきた人々の歴史に、これからの時代を生き抜く知恵を学びたいと思う。

周辺からの記憶 一東日本大震災 家族応援プロジェクト(22) P168~

國友万裕

最近、実家の家族が啓発セミナーに通っているらしく、そのセミナーで「誰かの美点を10以上あげろ」という指示が出されて、そこで僕の良いところを次のように羅列し

たとのこと。です。

- ① 映画や趣味に一途なところ
- ② facebookを毎日更新するところ
- ③ 映画に詳しいところ
- ④ 英語が上手なところ
- ⑤ 京都で一人で頑張っているところ
- ⑥ 最近きれい好きになったところ
- ⑦ おしゃべりなところ
- ⑧ 学生や若い人とも仲良くなれるところ
- ⑨ 家の行事があると贈り物を送ってくれるところ
- ⑩ 何かあるとマメに連絡するところ
- ⑪ 最近大人になったところ

長所と言えるかどうか(笑)、映画や趣味に一途だったり、京都で頑張り続けたりしていることはこだわりが強いせいで、物事に執着し過ぎるということだし、おしゃべりなのは口が軽くて、チャライという言い方もできます。FBを毎日更新するのは孤独で誰かに承認して欲しいからです。学生と仲良くなれるのは精神年齢が低いから。最近大人になったと言うけど、逆に言えば、もう55歳なのに、最近まで大人ではなかったということなわけだから…思わず、笑ってしまいました。

とは言うものの、家族が僕の性格をポジティブに捉えてくれたことは素直に嬉しかった。もちろん、啓発セミナーの人にポジティブに人を捉えることを教えられたからなのかもしれませんが、家族が僕のことを受け入れてくれていることは事実なのでから。

家族から受け入れてもらっている以上、自分を無理に変える必要はないのかもしれない。自信を持って、生きていきましょう。今年は55歳。Go! Go! です(しょーもない、笑)。

男は痛い!(30) P137~

北村真也

認定フリースクール 学びの森 代表
<http://manabinomori.co.jp>

京都府亀岡市で、さまざまな学習者の変容をめざした能動的な学び場「学びの森」を運営しています。

不登校の生徒たちが学ぶ「フリースクール」と「ハイスクール」、ひきこもり経験の

ある若者たちが学ぶ「ユーススクール」、発達障害を持つ生徒たちが学ぶ「放課後等デイサービス」、学校に通う生徒たちが学ぶ「探究スクール」の5つのスクールを展開中。亀岡市教育委員。

不登校経験を持つ若者たちの もう一つのキャリアパス P65～

古川秀明

最初は自分よりうんと年上の方の回想ライブをしていたのですが、いつのまにか主流が自分に近い年齢の方の歌が中心になってきました。

しかも凄く盛り上がるので、昭和20年、30年、40年代の方は是非一度お越し下さいませ。(シンガーソングライター)

講演会&ライブな日々 P158～

西川友理

京都西山短期大学で保育者養成をしています。それから、出来る範囲での支援者支援をしています。

色々新しい仕事が増えて来て、今までにない責任も増える予感。その中で、感覚的に分かってきたことの中に、「我慢はしない、努力をする」ということと、「誰とするか、どこでするかより、“何をするか”を大事にする」という事があります。

我慢はしんどいけど、努力は楽しいです。「何をするか」が明確になると、誰がかかわりどかが担当するかは自然と見えて来るおまけみたいなものです。これを実感すればするほど、いいかんじにわがままになりつつあります。

日々の仕事、3カ月に一度の勉強会、2カ月に一度の当事者研究会。その他諸々の出来事。トラブル続きは相変わらずですが、何とか楽しくやっています。

福祉系対人援助職養成の現場から P101～

坂口伊都

来年度、娘は大学受験に突入です。今から気が減入ります。娘の希望は生物系で、その中でも水産系に行きたいと言っています。まずは、どこにあるの？からで、まず思い当たるのは近大マグロ。調べるとキャンパスは、何故か奈良でした。後は、

静岡、長崎、北海道…。これだけ大学がある関西在中なのですが、近くにない。

そう言えば、娘が「私は劣性遺伝でできている」とドヤ顔をしていました。たれ目の一重、アルコールテストは全然飲めないMM型、耳の中はドライ型だそうです。MM型は、日本人全体の4%しかいないそうです。ちなみに私は、飲めそうな顔をしていますが、全く飲めません。飲酒をすると手のひらも目の中も真っ赤になり、身体が痒くなって、心臓が口から飛び出しそうになります。

さあ、来年度はどうなるのでしょうか。憂鬱。娘は、マイペースで頑張り屋ですが、繊細なところがあります。ちよつとしたことで凹み、高校受験の時も宥めたり、背中を押してみたりと大変でした。まあ、応援するしかないですね。何処の大学を志望するのか、そこから見守っていきま～す。

養育里親～もうひとつの家族～(24) P163～

河岸由里子(臨床心理士)

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

最近、自分が信じられなくなった。やったつもりが終わっていないことや、忘れ物が増えた。

先ず一度で事が片付かない。先日、事務所に行くのに、事務所の扉の前まで行って、キーホルダーに事務所の鍵がついていないことに気づく。途中で落としたのか、或いは車の中か、駐車場まで戻って車の中を確認するがない！あれ？来た道を戻りつつ、ポツンと雪の上に落ちていた鍵を見つけてホッとする。「そうそう、このキーホルダーの輪、緩んでいたんだ！」と思ひ出すが、注意が散漫になっていてチェックすることを忘れてしまう。大反省！

家を出る時も同様。あれとこれとそれを持ったと思って出たら、それを忘れていたから、また取りに戻る。色々な事務仕事も、一つのこと、あれこれやらねばならないことがあると、何かしら抜け落ちる。予約のダブルブッキングが起こってしまったり、次年度のシラバスや成績を作成して、送信したつもりが保留になっていたり…。

こんなことを繰り返して思うことはただ一つ。「ボケ？」

60代も半ば、ボケてきても当たり前かもしれない。ボケを何とかするには、やはり

刺激を多くするしかないか。

周りの人は優しく、「忙しすぎるからだ。」と言ってくれる。確かに昨年から今年前半までは、用事が沢山重なりすぎている。自分の処理能力を超えているのかもしれない。一つずつ、確実にこなすように、常にメモを書き、メモを確認しながらやっているつもりだ。それでも抜け落ちる。溜息しか出ない。今年は年明けからあまり良い流れではないので、何とか今を乗り切り、良い流れにもっていき、抜け落ちたり、忘れてたりすることが無いよう気をつけて過ごせたらと思う。頑張り、自分！

境界あれこれ(11) P107～ 先人の知恵から (23)P225～

岡崎正明

会見場に現れたその人は、記者たちに神妙な顔で会釈をした。それから司会者と目で合図をし、少し下を向いて小さく深呼吸したかと思うと、覚悟を決めたかのようになり、まっすぐ前を向いて語りだした。

「このたび私たちも関わりを持たせていただいていたお子さんが亡くされました。このことについて、所員一同深い悲しみと、言い表しようのない無念さを感じております。亡くなられたお子さんのご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

今回何よりもかけがえのない命が失われたこと。そしてその親御さんが加害者となってしまったという、ご家族にとって最悪の結果となってしまったことが、ただただ、本当に残念で、残念でなりません。児童家庭相談に関わるものとして、これほど強い無力感にさらされる出来事はありません。本当に悔しく、悲しく、筆舌しがたい想いで一杯であります。

当所としましては、その都度できる限りの対応をしてきたつもりではありますが、結果としてこうなってしまったことを重く受け止めています。今後は、もっとできることはなかったのかを点検しながらも、今この瞬間も支援を必要とするご家庭や子どもたちが多数待っている状況ですので、さらにきめ細かく、今私たちに最大限できる、子どもたちに寄り添った支援を進めてまいりたいと思っております。

結果としてこのようなことになったことについて、最終的な判断をする立場にある私自身の力不足はもちろん感じておりま

すし、様々なご意見やご批判も受ける覚悟でおります。ただ、現場では日々正解の見えない中、職員が本当に悩みもがきながら、懸命に子どもや家族の支援しております。当所において、子どもさんの命がどうでもいいなどと考えて仕事をしている者は、1人もおりません。その点は所長として、確信をもって言えるところであります。



職員は万に1つの事件につながってはならないと、最悪の事態を想定しながら対応すると同時に、残りの9,999件の、困難を抱えたご家族の支援という、ときに矛盾する現実と葛藤しながら、現状で最大限の努力をしてくれております。残念ながらうまくいっているケースについては、あまり知られる機会はなく、全国の現場では心の病で休む職員が後を絶たないという、苦しい状況もございます。

今回の当所の対応に関しまして、またこの記者会見に対して、当所へのご意見やご批判等あれば、現場の責任者である私がお受けします。最終責任者は私です。ただどうか、職員に対しましては、今後も応援してやっていただけたらと思います。本当に職員は精一杯やっております。皆様のご理解や応援がないと、今後この現場に志をもった優秀な人材が来なくなってしまうことを、私は憂慮しております。どうかにとぞ、よろしくお願いいたします。

合わせてみなさまの身近にいる子どもや、その家族。そして子どもの支援に関わる人々へのご理解とご支援を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はご清聴ありがとうございました」

上記はすべてフィクションであり、実在の事件や人物・団体等とは関係ありません。

役場の対人援助論(27)

P148~

浦田雅夫

くりかえされる虐待死事件。

児童福祉司になるための要件として、「子ども家庭福祉士」なる子どものソーシ

ヤルワーク専門資格を作ろうという動きがある。

「社会福祉士」は？どうなるの？注視したい。

社会的養護の新展開 4

P63~

団士郎

相変わらず暇にならない。そうありたいと思っているのだから、文句はないのだが、それにしても慌ただしい。大学を定年退職になってもう1年になるのか、あつという間だったなあが実感である。

スケジュール表を見ると、先まで予定はびっしりだ。年間仕事、季刊仕事、月間仕事、週間仕事と並んでいて、我ながらあきれる。そこに、単発の打診やぶつ込みが入る。

今年は今から6月の家族療学会(札幌)のグラフィックメディスン関連と、8月の中国・蘇州での表現性心理学会での講演&WSが定例外仕事だ。

その合間を見つけて、新たな何かを作りたい。久しぶりに専門領域の啓蒙書風のモノも書いてみるかと思ったり。

現任者対象で続けている家族理解WSが全国に広がっているのは本意なことだ。まだまだできる間は果たすべき使命があると思っ生きています。

「続・家族理解入門」(6)

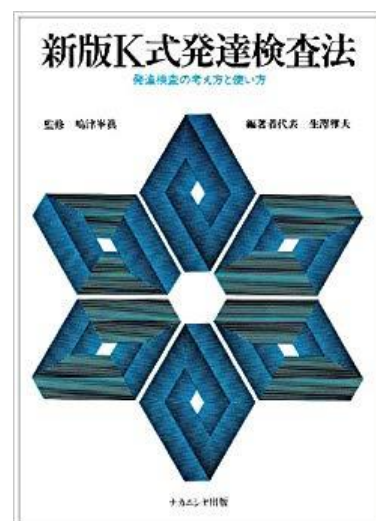
P52~

大谷多加志

連載のテーマにしている「新版 K 式発達検査」のリニューアル版(改訂版)の発行が1年後に迫りました。2013年からの7か年計画で進めてきて、ちょうど6年目を終えようとしていることとなります。現在の進捗状況から考えると、ひとまず当初の予定通り2020年の発行にこぎつけられる見込みで、個人的に、これは大したものだと思っしています。

計画を立案した時点で、改訂版作成のためのデータの収集の体制作り、研究協力者や協力機関の確保、具体的な改訂の内容や最終的なデータ処理など、ほとんどのことは未定で、また自分の手に負えるものなど皆無という状況でした。だからこそ時間的な猶予だけは確保したいと

考えて7か年計画にしたというのが、正直なところでした。



この7年の間に、思いがけない形で、さまざまな人や機関の協力を得ることができ、またいくつかの具体的な成果を形にすることができましたが、計画を立案した時点で予測できたものはほとんどありませんでした。予定調和として完成品を作り上げたというよりは、その時々で最善と思われる対応を重ねた結果として、現在の精一杯のところとしてたどり着いたものが、来年発行する改訂版であると思っしています。

短期的な労力やコストと、費用対効果でしか未来を語れないのは弱い。意味があると思っ営みを継続していくことが結果として形を成すのだと、実感をもって教えてくれたものの一つが、このマガジンであると思っしています。ここ数回、自身の連載について、少々行き詰まりを感じながら書いていましたが、今回はちょっとだけ壁を越えられたような気がします。以前、マガジンに2本併行で連載していた時(マガジン19号から28号まで。もう1本のタイトルは「知的障害の家族の日々」)の要領を取り入れて、挿絵入りで原稿を組み立ててみました。自分としては、よい方向に動き始められたかなと思っしています。

新版K式発達検査をめぐる

P154~

馬渡徳子

今年の冬は、金沢も暖冬で、あんなにもうんざりした昨年の豪雪が、なんだか懐かしい。

暖冬なので、大丈夫かなと、油断してい

たら、1月に入り、すわ毎年恒例のギックリ腰になりそうになった。

流石に、「3年連続の休稿は無しやな」と、早めに、予防的リハビリに通うことにした。私たち夫婦の仲人を務めて頂いた医師が開業されており、思い切って、週2回 早朝6時半からのリハビリ通院。朝早く目覚める習慣の自分にはぴったりで、スッキリとした気持ちで、出勤できる。

若い理学療法士さんの、士気を上げる励まし言葉で、「キュン」となるので、「筋トレ」ならぬ「キュントレ」と命名して、真面目に自主トレメニューも、就寝前に実行している。一昨年夏から、ずっと続けてきた「5分間瞑想」と合わせて行うことにした。

びっくりしたのは、今年2月中旬の職員検診で、昨年よりも1cm背が伸びていたこと。体重は1.5kg増えているのに、腹囲が3cmも減っていた。

うーん。体幹鍛えると、姿勢が良くなり、内臓も上がるんだなと。

「キュントレ」一応2月末で、卒業らしい。私が、相当、残念そうな顔をモロにしたのだろう。「悪くなって来院するのではなく、良くなった自慢をしにいらして下さい。」と声をかけられた。

デイサービスやデイケアに通うとお洒落が復活する人生の先輩女性方の心持ちに、大いに共感した。

「ケアプラン」の価値Ⅳ P203～

竹中尚文

【料理】今回はスモークサーモンのパスタ(2～3人分)

まず、簡単なスモークサーモンを作る
準備:スモーカー、スモーク用のチップ(ヒッコリーチップかホワイトオークチップ)、吸湿シート、一夜干し用のかご、甘塩の鮭 ※道具は東急ハンズのようなお店でほぼそろそろ。スモーカーはどこで使うかによって選ぶ。キッチンのガスにかけられるなら小型。屋外で煙を出してもよさそうなら大型。必ず温度計付きのもの。

- ① 甘塩の切り身の鮭を2切れ。それぞれを吸湿シートで包んで、冷蔵庫で1～2日置く。②吸湿シートをはずして、かごに入れて、半日～1日、日陰に吊す。決して、日光にあてない。③鮭をスモーカーに入れて、チップ

を一握み程、入れる。④60℃～70℃で1～2時間、熱を加えた乾燥。⑤ウッドを一握み入れて、70℃～80℃。煙が出なくなるまで約1時間。⑥冷蔵庫で1日ねかせる。

準備:スモークサーモン、玉葱半分、生クリーム 200ml、パスタ

- ① スモークサーモンが切り身なので、皮と骨をはずして、大きめに身をほぐす。②玉葱をスライス、フライパンに入れて塩コショウを少なめに加えて、炒める。③パスタを塩水で茹でる。④玉葱を炒めたフライパンにサーモンをいれて、かるく炒める。さらに生クリームを加えて温める。⑤茹で上がったパスタをフライパンでからませる。

【音楽】今回はジョージ・マイケル。映画のヒットでまたクイーンの人氣が復活した。フレディ・マーキュリーの追悼コンサートでジョージ・マイケルが歌った Somebody to Love は圧巻だった。エルトン・ジョンとジョイントした Don't let the sun go down on me も捨てがたい。2年余り前のクリスマスに亡くなった時は、世界中で Last Christmas が流れた。

盆踊り漫遊(5) P130～

鶴谷 主一

働き方改革について、前号、前々号で紹介してきたが、僕が原町幼稚園に就任する前から勤務していた主任が今年度で定年を迎え退職することになった。良い仕事もしたが、人間関係にムラがあった。

いわゆるお局様となって、気に入る人と気に入らない人の扱いに差が出ていた。身を引いてもらえないなら私が辞めるという声も1件ではなかった。

後任の主任は、経験10年の若手(幼稚園では中堅)が抜擢された。後任が4月からの体制を構築する準備期間が必要だった。でもお局様がいたりやりにくい…

そんなこともあったり、ICTを導入して進めていくという大義名分もあって、3月を待たずに身を引いてもらうこととなった。1月から3月まで有給休暇として休んでもらったのだ。

職員室の中は1ヶ月でガラッと雰囲気が変わり、2月末にはかなりの新体制が出来上がっていた。課題や準備すること

は相変わらず多いが、働き方改革のキモは人が変わるのかな、とも思うこの頃である。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から

P97～



乾 明紀

乾燥肌による発疹と痒さ、風邪かストレスによる腹痛とトイレに行き過ぎたことによるお尻の痛さ。さらに花粉症が数日前から発症…。そりや社会保険料にかかる費用も増えますよね。でも、病院と社会保険制度のお陰で QOL が悪化しすぎずに暮らせております。

周旋家日記(25) P145～

水野スウ

前号短信中で、この3年間に書いた2冊の『けんぼう BOOK』が、「平和・協同ジャーナリスト基金 荒井なみ子賞」をいただいたことのご報告をしたのですが、今号はそのことをもっとくわしく。新刊『たいわけんぼうBOOK+』づくりの裏話もふくめて書いてみました。国民投票のまえにぜひ知ってほしい改憲についてのポイントが、今号マガジンにはぎゅっと詰まっているので、本一冊読む時間はないけど、って方にこそ、「きもちは、言葉をさがしている」のページを探して読んでいただけるとうれいなあ、と思います。

あいかわらず県内外に憲法のおはなしの出前にいっています。つい先日の会場は、県内のフェアトレードショップの、靴をぬいであがるカフェでした。

いつもはキッズスペースになっている場所を、個室空間にしてのおはなし会。参加してくれたのは18人(若いママ&ミドルさん、女子大生さん、男のかたも1人)プラス&赤ちゃんやちいさなひとが8人も。

憲法きほんのきから、紅茶の時間の話。誰もが身の丈に認めてもらいたいと願って生きていること。それが人権ってことだよ、と話しながら、憲法が私たちの暮らしの足もととどうつながっているか話していきます。いごちのいい空間で、ママたちの反応を確かめつつ、伝えたいことを言葉にしていく、私にとっても至福の時です。

この日、こんなにも若いママたちの参加比率が高かったのは、このお店がもともと、赤ちゃんや子連れで行きやすいお店であろうとしているからだだと思います。行けば、子ども大好き店長さんが、ようこそ、って迎えてくれる。子どもが大切にされて、迷惑がられないので、ママたちも安心していられる。2人の子とのランチタイムなど、ママがいそがしい時は店長さんが代わりにちょっと抱っこしてくれたりする。

そんな店長さんが企画してママたちによびかけたけんぼうかふえだから、おなじみのお客さんたちも、いつもは高そうに見える憲法のハードルをひょいと飛び越えて参加してくれたのかもしれない。店長さんが、ママたちにどうしても知ってほしいな、聞いてもらいたいなと、心込めてかいた呼びかけのお便りも、きっとみなさんの背中をおしたのでしょう。

このカフェでは、ほかにもいろんな集まりや上映会があって、そこで出会った人たちのなかで少し子どもさんの手が離れたママたちは、見守り隊って感じでそこにいて、一緒に話を聞いてくれている。そういうのがあわさってのこの日の空気感だったんだ、とあとからわかりました。

このけんぼうかふえの企画もふくめて、こういった日々なのが、私の大好きな友人でもある店長さんの、ふだんの努力の「12条する」です。

憲法の講演会しても若い人が集まらなくてね、ちっとも来てくれなくてね、って声、あちこちでよく聞きます。それは一つには、ふだんから自分が、若い人にどう接しているか、上から目線のものいいでなく平らに

話しているか、年下の人の話も聴こうとしているか、相手にありがとうと言っているか、といったことごとが問われてもいるんだろう、と思うのです。この日のおはなし会には、そのヒントがいっぱいありました。

きもちは言葉をさがしている(34) P123~

荒木晃子

昨年10月に始まった新たなチャレンジ。数年前から取り組んできた立命館大の研究プログラムがJSPS日本学術振興会研究助成事業に採択され、現在も研究メンバーとして忙しく活動中である。60才を過ぎてはなお、社会貢献活動の一端を担えること、また、それを継続できることに感謝の日々を送っている。

精神科、生殖医療施設のカウンセラーとして20年以上カウンセリング業務に就き、数百、もしかすると1千人を超えるクライアントの語りに耳を傾けてきた。しかし、過去に、これほど多くのLGBT等セクシュアルマイノリティ当事者の語りを聴く機会はなかった。彼らのライフストーリーの語りを聴くたびに、これまで私が知ることのなかった当事者の苦悩の一片を見つけ、分析し、それを支援につなげることが研究者としての私の役目だと思っている。

当事者の語りから、その人となりを知り、理解することから始まる支援がある。単に、「さぞかし辛かったでしょうね」では済まされない事象の中を生き抜いてきた当事者の語りは、まさに今、私の中に浸透し、新たな支援のあり方への気づきをもたらしてくれている。自ら望んで受け入れた私の中の変化を、うれしく思うと同時に、彼らの抱える苦悩に押しつぶされないよう、さらに強靱な心を備えた援助者であらねばと思っている。

唯一の反省点としては、常時インプットばかりで頭の中が膨れ上がり、アウトプット作業が追いついていないこと。能力にも体力にも限界があることを、時折忘れることがあること、かな。

生殖医療と家族援助 P110~

見野 大介

先日初めてテレビ番組の生放送に出演しました。NHK奈良の18時半からの生放

送でしたが、生放送が始まるまでにリハーサルを何回も重ね、内容をまとめ上げていって本番を迎えるという流れで作っていることに感心しました。

とはいえ、感心したなんて思ったのは生放送が終わってから数時間経ってからのことであって、リハーサルから本番終わって帰宅してしばらくの間、ただひたすら緊張していました。元々こういうのは苦手やったので覚悟はしていたんですが、想定をあっさり上回る緊張状態で本番を乗り切りました。

これからは、テレビで緊張しまくっている若手の芸人やアイドルに対して寛大な心で見守ってあげようと、考えを改める良い機会になりました(笑)

ハチドリの器 P4~



久々 サトウタツヤ

久しぶりに寄稿することができた。

約1年前に取材した、太政官布告のパロディ「万歳三唱令」の起源を解き明かした会談。その道のプロにはそれぞれが目指す「北極星の展望」なり「勲章」があると思いますが、噂の研究者にとっては、その起源を解き明かすことがそれにあたりまです。至福の時でした。

対人援助学&心理学の縦横無尽 P113~